

# [dōnk]

## DONC どんく

N°91 juin 2011 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

発行

### 三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418  
418, Komei-cho Tsu-shi  
TEL 059-226-2766  
FAX 059-229-0967

## 7/10(日) 三重日仏協会2011年度総会とレセプション

### ●●●● 記念コンサートは 荒木まどかさんのハープ演奏 ●●●●

三重日仏協会2011年度総会と記念コンサート、恒例の「パリ祭」パーティーを下記のように開催します。

サロン風の記念コンサートには、地元出身で将来を嘱望されている若いハーピスト・荒木まどかさんに出演をお願いしました。まどかさんは本会会員・荒木めぐみさんのお嬢さんで、長くフランスやスイスでハープの研鑽を積み、ヨーロッパ各地で数々の演奏会に出演、2009年には三重大管弦楽団定期演奏会でモーツァルトの協奏曲を演奏され好評を博しました。フランス音楽を中心とした、繊細、優雅でかつ華麗なハープの演奏がお楽しみいただけると思います。総会以外は一般公開です。お誘い合わせてご参加ください。

なお今年度の総会は、役員改選や今後の活動の方向など大切な課題で、会員の皆様のご意見をいただきたく、こちらにも多数のご参加を期待します。

◇日 時 7月10日(日曜日) <受付開始 2:30>

総 会 3:00

記念コンサート 3:30

「パリ祭」パーティー 5:00

◇場 所 津都ホテル (TEL 059-228-1111)

◇参加費 コンサートのみご参加:

「ワンコイン」500円いただきます。

「パリ祭」パーティー参加者:

6,000円 (コンサート入場料含む)

◇演奏曲目: ドビュッシー作曲 アラベスク第1番

フォーレ作曲 即興曲

パッヘルベル作曲 カノン 他



# 東日本大震災・フクシマ原発大災害へ

～フランスから～

東京・横浜日仏学院のHP「日本に寄せる60分のメッセージ」

〈60 minutes pour le Japon〉より



Augustin BERQUE

オーギュスタン・ベルクと申します。いまはパリにいますが、昔6年間仙台に住んだことがあります。遠い国から自分の気持ちを表すことは難しいので、むしろこの写真を見ていただきたいと思えます。これは昭和49年の正月、およそ40年前に撮られたものです。ここは新浜と言って、仙台から阿武隈川を越えて20キロくらい離れた村です。この3人は私と1歳、3歳の長女と長男で、冬なのでみなドンボクを着ています。この長女の長女、つまり孫娘が去年招待されて新浜に行ったことがあります。新浜が津波で破壊されたと聞いたとき、彼女は泣いて完全にしおれてしまったそうです。それほど私たちの心に日本が生きているというわけです。どうぞ日本の皆様、東北の皆様、新浜の皆様、しっかりしてください。

A. ベルクさんは1987年三重日仏協会創立総会で記念講演をされました。このHPには、ほかにジェーン・パーキン、ジャンヌ・バリパールなどフランスの著名な芸術家、学者、政治家などから多数のメッセージが寄せられています。

## 日本の友人たちへ

Yves François

地震、津波、特に福島原発大事故後、私が感じていることを書きます。

フランスでは、災害史上「フクシマ以前」と「以降」という区別ができると言われています。

今回の災害に対面した日本人の冷静で規則正しい態度にフランス人は皆、感心し、尊敬の念にかられました。多くの知人が日本の家族を心配してくれました。

原発事故を知った時にはやっぱりと感じました。それは私が長年懸念してきたことが不幸にも現実となってしまったからです。30年余り、高速増殖炉スーパーフェニックスのそばに住んで、原発の意見を機会があるごとに表明してきたからです。

農業を営んでいる者としては、悲しみと怒り、不愉快な気持ちでいっぱいです。

テレビで大津波が漁港やビニールハウスや畑を破壊していくイメージに、自然の恐ろしさを見せ付けられました。しかし、福島原発の爆発後、わたしの同業者、農家の人たちが牛乳を捨てたり、家畜を殺さざるをえなかったり、作物を粉砕したりするのを見ては怒りがこみ上げてきました。これは予想することのできた人災だからです。

TEPCOは今まで利益第一を理由に安全面をおろそかにしてきました。しかも長期間猛毒である、モックス燃料を使用していました。

この災害によって、福島農家や漁民の方々は二重の損害を受けるわけですが。健康を損なう放射能の被害を受けるだけでなく、永久的に立ち退かなければいけないので、自分たちの資産、仕事場、生活の糧を失うのです。

おいしくて質の高い食料を提供することが私たち、農民、漁民の仕事の使命です。(日本人は食べ物にうるさいことはよく知っていますが、わたしも日本料理の大ファンです。)ところが、それが、一部の無神経な人たちのために、長期にわたって土地や海が放射能汚染されることによって壊されてしまったのです。

でも日本人たちは、勿論、農業や漁業に携わる人たちも、この災害から立ち上がることができると信じています。日本政府はエネルギー政策を再検討し、代替エネルギーを重視していく方針を出したと聞きました。農業と漁業は人間にとって一番大切なエネルギー、食糧を供給しています。食糧は人間の身体を動かすのに不可欠です。農業では代替エネルギーを使用することも作り出すこともできます。たとえば、バイオマス、(メタンガス)、太陽エネルギー、風力発電などです。そして、安くて確かなことは省エネです。

これから日本人とフランス人は、他のヨーロッパ諸国の人々と協力して、美しい地球の全住民の幸福のために、代替エネルギーを賢明(懸命)に開発できるようにしていくべきではないでしょうか。

イヴ・フランソワさんは、先年三重大学大学院に留学していたメラニー・フランソワさんのお父さん、リヨン東方のクレイ・メビュー村で農業を営んでいます。

## 読売新聞 4月12日 原発事故の収拾策

フィリップ・フォール駐日仏大使の発言から (抜粋)

### 「猛獣は常に監視必要」

(・・・) 原発の国際市場は「フクシマ」の前後で大きく変わるだろう。安全重視の動きが強まり、「安上がり原発」の時代は終わるはずだ。

サルコジ大統領は国際的に共通の安全基準づくりを提唱している。航空機には国際基準がある。原発にはそれがなかった。背筋がぞっとする話だ。テロ攻撃も考える必要がある。フランスが開発中の次世代原子炉は9.11のような航空機テロも想定している。

化石燃料は無尽蔵ではない。温室効果ガスを出す問題もある。太陽光や風力は将来性があるが、安定したエネルギー源にはなれない。ただちに原子力に取って代わることはできない。こうしたことを考えると、電力の75%を原発に頼るフランスは安全性を一層高めたいという原子力を推進していくしかない。

フランスには政府や電力会社から完全に独立した安全委員会がある。

ただ原発はひとたび事故が起これば大変なことになる。リスクがゼロであるということはありません。今回の事故は原発のそんな危険性を改めて思い起こさせた。

仏原子力庁の長官は次のように言っている。「原子力はそれが危険であることを忘れない限り危険ではない」。

原子力と人間の関係は、サーカスの猛獣と猛獣使いの関係になぞらえることもできると思う。つまり優秀な猛獣使いはどんな場合も決して猛獣から目を離さない。一方、信頼関係が強くなりすぎると、逆に危険が生じる。このたとえは原子力にも当てはまる。



## 4/10 第11回 柏木隆雄 文芸講演会「正岡子規の自筆墓碑銘」

## 放送大学と共催で満員の聴衆

11回目を数えた柏木隆雄文芸講演会は今回初めて放送大学三重学習センターと共催で、三重県立文化会館の会議室で開催、60名の定員を超える参加者で「立ち見」も出る盛況でした。この春から大手前大学副学長に就任された柏木先生のお話は、正岡子規の死生観—フランス文学者が読み解く子規の自筆墓碑銘—。生前に自らの墓碑銘を書き残したのは、フランソワ・ヴィヨンと子規ぐらいと語り始められ、自筆7行からなる正岡子規の有名な墓碑銘に秘められた深い内容を、その生涯、病歴、交友、俳句から短歌への詩作の変遷などと関連しながら興味深く読み解かれました。

ちなみにその墓碑銘は、<正岡常規 又ノ名ハ處之助又ノ名ハ升又ノ名ハ子規又ノ名ハ彌祭書屋主人又ノ名ハ竹ノ里人 伊豫松山二生レ東京根岸ニ住ス 父隼太松山藩御馬廻加番タリ 卒ス 母大原氏ニ養ハル 日本新聞社員タリ 明治三十〇年〇月〇日没ス 享年三十〇月給四十円>。

## グループ紹介

## 四日市のフランス語会話教室

5月末の土曜日、四日市「じばさん三重」4Fの研修室は、女性たちの笑い声に満ちていました。毎週土曜日に、開催されているフランス語会話教室です（前半、後半の二部に分かれ、午前9時から12時まで）。現在、数名の女性と男性一名が参加されています。創設は約15年前にさかのぼり、最初は豊田元子さん（三重日仏協会専務理事）のご自宅でスタートしたとうかがいました。現在の講師はMichèle LANGEVIN（ミシェル・ランジュバン）さん、とてもユーモラスな女性で、日本在住が35年とのこと。CLE internationalの会話テキストが使用されていましたが、ミシェルさんの関心領域は幅広く、しばしばテキストを離れて、時事問題、文化、芸術などの話題に発展してゆくそうです。皆さんもそれが楽しみで、10年以上通い続けているメンバーばかりでした。その日は、ミシェルさんが持参してきたAujourd'hui le Japonというジャーナルに掲載された“arche de Noé”で話が盛り上がっていました。大津波に心を痛めた日本人が考案した鋼鉄製の「ノアの方舟」のニュースでした。和気あいあいとした雰囲気が印象的で、15年も継続する理由がその辺りにあるように感じました。

毎週木曜には初級会話コースも開催されています（じばさん三重：午後7時30分から1時間30分）。フランスへの留学や、ビジネス出張などの目的を持った方も交じって、現在12名の生徒が学んでみえます。講師はアリアンス・フランセーズ愛知から招かれたFabrice CHOTIN（ファブリス・ショタン）さん、とても教育熱心な方だとうかがいました。参加は自由で、希望される方は、豊田元子さんまで連絡してください。Tel 059-351-8031

